

# 平成 29 年度「青森市子どもの権利の日」イベント 青森市子ども会議フォーラム 2017

## 「FOR CHILDREN ～参上！青森市の小さき救世主～」開催概要

- 1 日時 平成 29 年 11 月 19 日（日） 準備・リハーサル：9 時 00 分～12 時 00 分  
イベント本番 : 13 時 00 分～16 時 00 分
- 2 場所 青森市議会 議場、委員会室
- 3 出席者 子ども会議委員 16 名（欠席者 7 名）  
子どもサポーター 2 名（欠席者 5 名）
- 4 次第
  - 1 開会
  - 2 市長あいさつ
  - 3 第一部 私たちからの意見提案（議場）  
～子どもにやさしいまちづくりに向けて～
  - 4 市長からの感想  
～休憩～
  - 5 第二部 子ども会議と一くいべんと（委員会室）  
～おはなししよう。みんなのこと 自分のこと。～
  - 6 閉会

### 5 開催概要

いよいよ今年もイベント当日を迎えました。

市では、「青森市子どもの権利条例」において、毎年 11 月 20 日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。昨年まではアウガ 5 階の AV 多機能ホールで開催していましたが、今年は市議会議場をお借りして開催することになりました。

午前 9 時、お揃いの T シャツを着用し市役所本庁舎に集合した子どもたちは、控室で意見発表の最終確認を行いました。初めての議場での開催ということで子どもたちは少し緊張している様子で、いつもより少し静かに打ち合わせを行っていました。

その後、議場で本番を想定した全体リハーサルを行いました。司会進行の子ども会議委員は議長席、各グループの子どもたちは議員席に座り、発表時の動きの確認などを行いました。子どもたちはいつになく真剣な表情でリハーサルに臨んでいました。

リハーサルを終えた子どもたちは、場所を移動し早めの昼食をとり、本番に備えました。

そして 13 時になり、いよいよイベント本番がスタートしました。



**青森市子ども会議フォーラム 2017**  
**「FOR CHILDREN ～参上！青森市の小さき救世主～」**

はじめに、イベントの開催に当たって小野寺市長からあいさつがありました。

市長は、「開催までに何度も集まって調査や検討を重ねたと聞いています。今日は、その調査を踏まえて青森市のまちづくりに対して意見提案をいただけるということで、とても楽しみにしています。この会場は、市議会議員の先生方がいつも審議、検討をしてくださっている青森市で最も格調の高い会議室です。その会議室をお借りして子ども会議の

イベントを開催しています。青森市議会の皆様には心から感謝を申し上げたいと思います。今日のこのフォーラムが、子ども会議委員の皆さん一人ひとりにとって意義深い経験となりますことを心から願って開催のあいさつとします。今日はどうぞよろしく申し上げます。」と述べていました。



続いて、「第一部 私たちからの意見提案～子どもにやさしいまちづくりに向けて～」が行われました。

## 1 「郷土料理・特産品」グループの発表

<活動をはじめたきっかけ>

昨年度、「健康と食」というテーマで、青森のりんごとカシスについて調査し発表したが、今回はカシスに焦点をあてて、深く調べたいと思った。

青森の特産品といえば、りんごがとても有名だが、りんごだけでなく青森市はカシスも有名だということを、子ども会議を通してもっとPRしたいという思いがあった。そこで今回は、オリジナルスイーツを考案してPRしたいと考えた。



<これまでの活動内容>

- ①カシス農家さんへの聞き取り調査
- ②オリジナルカシススイーツ「カシスゼリーチーズケーキ」の考案
- ③「カシスゼリーチーズケーキ」試食会の開催を行った。



<意見提案内容>

①カシスを売っている場所を増やしてほしい。

⇒試食会を行うときにグループのみんなで買出しに行ったが、扱っているところをなかなか見つけることができず、大変だったから。

②飲食店だけでなく一般の家庭にも普及するようにしてほしい。

⇒今回作った「カシスゼリーチーズケーキ」のような簡単に作れるレシピを市民に紹介すれば、一般の家庭にももっと広まると思う。

③カシスのほかに市で PR している特産品があれば教えてほしい。

⇒今回は「あおも리카シス」をピックアップしたが、今後の活動に向けて、市が推している特産品を PR したいと思ったから。

続いて、ただいまの意見に対して市からコメントをもらいました。

**市からの回答**

(小野寺市長)

①の意見について、青森市の特産品として日本一の生産量を誇るカシスだが、生や冷凍のカシスではなく加工品として販売されることが多く、また、観光客向けのお土産やさんでの取り扱いが多いのが現状である。ただ、子ども会議委員からの提案でもあったように、東京・赤坂のアオモリンク赤坂で開催したあおも리카シスフェアで好評だったり、ネットショップにおいて売上げが上がっているなど、カシスを直接買いたいという声が多くなってきているため、あおも리카シスの会と連携し、冷凍のカシスの販売チャネルを検討していきたい。



(農林水産部 永澤次長)

②の意見について、冷凍カシスを消費者に購入してもらうために、市では、一般の方が日常の食生活にカシスを取り入れやすいような環境づくりを進めていくことが必要だと考えている。そこで現在、あおも리카シスを使った料理のレシピを市民の皆さんから広く募集しているところであり、11月19日現在、6レシピが集まっている。集まった料理を多くの家庭で試していただけるよう、そのレシピを紹介する冊子の作成や、インターネットで紹介していくこととしており、その際には、子ども会議委員が考案したスイーツも紹介していきたいと考えている。このような取組を継続していくことに加え、あおも리카シスの効能を最大限に PR していくことで消費者の購入意欲を高めることができれば、多くの家庭であおも리카シスを料理に使ってもらえるものと考えている。今回の提案は、まさにあおも리카シスの会と私たち職員への「がんばれ」という応援に感じた。皆さんの提案を実現していきたいと考えているので、あおも리카シスを一緒に盛り上げていきたい。

③の意見について、青森市は全国に誇れる農林水産品がたくさんあるが、特にお知らせしたいのが、ミニトマトの「ベビーベビー」である。ベビーベビーは、もともとは「ぶちぷよ」と

いう品種のトマトであり、このトマトを完全に熟した状態で、しかも皮に少しでも傷がついたものや甘さの基準である糖度が8.5%以下のものなどは取り除かれるため、全体の3割程度にしか商品とならず、実際に販売される量が大変少ない。また、普通のトマトは、店頭で並ぶころに食べごろになるよう熟す前に収穫するが、ベビーベビーは完熟状態で収穫するため、普通のトマトに比べ極端に日持ちもしないので、なかなかスーパー等で販売しにくいということもあり、さらに希少性の高いものとなっている。特徴として、皮が薄くて柔らかくフルーツのように甘いので、トマト嫌いの方でも気軽に食べられるものとなっている。ベビーベビーの販売は、7月から10月位に限定されており、大野にある渋谷種苗店での予約販売やネットショップで購入できるほか、生産者の方たちが主催するイベント「あおもりマルシェ」でも購入できるが、大変人気で開店早々売切れてしまう。値段も少し高めで1個40円から50円程度であるが、ぜひ機会があれば一度食べていただきたい。

続いて、市からのコメントに対し子ども会議委員の代表者から感想をもらいました。

(子ども会議委員)

市の方で、東京などでPRしているということがよく分かった。一般の人でも食べやすいように、ジャムやジュースなどにして売っていたり工夫をしていることがよく分かった。

紹介していただいたベビーベビーは、来年、子ども会議の中で、調べたりレシピを考えたりして、もっと一般の方に知ってもらえるようPRしていきたい。

## 2 「子どもを取り巻く環境」グループの発表

<活動をはじめたきっかけ>

子どもの遊び場について考え、子どもの遊び場からさらに公園にしぼり、公園を子どもがより安全に楽しく遊べる場にしたと思い、現地調査をしようと考えた。

<これまでの活動内容>

- ①市内公園(5箇所)の現地調査
- ②調査結果の担当課への報告を行った。



<意見提案内容>

- ①公園遊具の整備や増設をしてほしい。  
⇒特に近所の小さい公園では遊具が古くなっていたり使用禁止になっていたから。
- ②ボール遊びができるような公園を増やしてほしい。  
⇒多くの公園では通路への飛び出しなどの問題からボール遊びがしづらい状況だから。

### ③公園に外灯を増やしてほしい。

⇒中高生は夜に利用することも多いが、外灯が少なくて怖いところもあるから。

続いて、ただいまの意見に対して市からコメントをもらいました。

#### 市からの回答

(小野寺市長)

①の意見について、市が現在管理している公園・児童遊園は175箇所、遊具は735基であり、これらの遊具は毎年修繕をしている。27年度は53基、28年度は62基、今年は今時点で33基を修理している。また、新しくした遊具の数は、27年度は8基、28年度は7基、29年度は今時点で10基である。こうした公園にある遊具の取り替えの際には、安全を第一優先に効率よく計画的に取り替えることが大事であり、青森市公園施設高寿命化計画に基づいて、順次、取り替えを進めているところである。納めていただいている税金には限界があるため、遊具を直したり増やしたりするためのお金の振り分け方が大切である。公園は、小学生だけでなくもっと小さい子どもからお年寄りにも使われるほか、地震や火事などがあった場合の避難場所にも指定されている。また、雪を運ぶときの一時的な置き場所として使われる公園もある。こうした機能も考え、遊具だけをたくさん増やしていくこともできず、公園を整備していく際には、しっかりと考えて準備していこうと取り組んでいる。ただ、ベンチが壊れていたりシーソーの取っ手が外れているなどの危ないという部分があれば、職員がすぐに直したいと思うので、ぜひこれからも市に知らせていただきたい。

(都市整備部 八戸理事)

②の意見について、市では、公園内でボール遊びをすることにより、他人にとって危険だったり迷惑になるようなところではボール遊びをしないように呼びかける看板を設置しているが、すべての公園に設置しているものではない。公園は、休憩・散歩・遊び・運動などのレクリエーションや、地震などの災害時の避難場所としても使えることを目的とした誰もが安心、安全に利用できるみんなの共有財産であることから、公園を利用する際には、お互いに他の公園利用者の迷惑とならないように利用していただければ、基本的には自由に使っていただいているところである。市内には、青い森セントラルパークや合浦公園など、地域にある公園と比べ大きな広場や空間がある公園があるので、こうした場所を利用しボール遊びをしていただければ、大変良いと思う。まずは、他人にとって危険や迷惑にならないようにして遊ぶことが大切だと考えている。



③の意見について、公園の外灯は少し暗いと感じられるところもあるが、住宅地では、近所の住民の睡眠の妨げになるなど、外灯の明るさが迷惑となる場合もある。外灯を設置する際には、その公園の種類や規模、特徴などを総合的に検証し、その公園にふさわしい外灯のデザインや明るさを決めている。現在、市が管理している公園や児童遊園にある外灯の数は、964基となっている。夜に暗いと感じられる公園については、今後、地域の方々や子ども会議委員

からいただいた意見などを参考にしながら、現地を調査するなどその公園に相応しい照明器具への交換や明るいランプへの交換を検討する。なお、今回調査してもらった公園の不具合の箇所は、担当課ができる箇所から修繕しているので、今後も安心して使っていただきたい。

続いて、市からのコメントに対し子ども会議委員の代表者から感想をもらいました。

(子ども会議委員)

市が公園整備に力を入れていることが分かった。これからも外灯を増やしたりするなどの検討をしてほしい。

### 3 「子どもの運動場所」グループの発表

<活動をはじめたきっかけ>

室内で遊ぶ場所が少なく感じたとともに、室内で球技などのスポーツをするには、施設を予約して借りる必要があるのもっと気軽にスポーツができる場所があればいいと思ったから。



<これまでの活動内容>

- ①自由に室内でスポーツのできる場所や予約状況の調査
- ②自由にスポーツできる子ども会議委員実施イベントの開催（10月29日）を行った。

<意見提案内容>

- ①市で行っている子どもが参加できるスポーツのイベントがあったら教えてほしい。  
⇒今回実施したような子どもがスポーツを楽しめるイベントを増やしてほしいと考えているから。

続いて、ただいまの意見に対して市からコメントをもらいました。

### 市からの回答

(小野寺市長)

皆さんの年代がたくさんスポーツ活動に親んでもらうことは、大人になってからも積極的にスポーツに取り組むことに繋がる。子どものころから体を動かすこと、気軽にスポーツに取り組むという気持ちを養うということは青森市にとっても大切だと思う。スポーツイベントを開催したという発表をとっても頼もしく思った。こうしてほしいと思うだけではなく、自分で動いてみようという考え方は、素敵な考え方だと思いながら聞いていた。市には、地域のプロスポーツクラブとして、バスケットボールの青森ワッツ、サッカーのラインメール青森FCというプロチームがあり、今年から両チームの選手に学校に訪問する取組を始めている。例えば青

森ワッツが、古川小や泉川小、ラインメール FC が西中、浪岡中、泉川小、新城中央小に訪問しているほか、プロ野球の楽天イーグルスから、スポーツ会場での野球教室のお話もいただいている。こうしたプロスポーツの方も市の小中高校生、子どもたちがスポーツに楽しく取り組んでもらえるよう協力してくれているので、ぜひ皆さんもどんどん挑戦し楽しみを実感してもらいたい。

(教育委員会 成田教育長)

青森市で開催しているイベントとしては、まず、今年で 26 回目となる「AOMORI マラソン大会」がある。小中学生、親子で参加した幼児などを加えると、子どもの数は、今年は 400 人以上が参加している。また、元プロ野球選手による「ドリームベースボール」は、往年の名選手、金田投手や村田兆治投手、桑田投手などたくさんの元プロ野球選手を招き開催した講座で、小学生が 400 名以上、中学生も 200 名弱が参加し、往年のプロ選手に触れるという機会を設けている。身近なところでは、青森山田高校出身で、現在ジェフユナイテッド市原に所属している J リーガーの高橋壱晟選手を招いてのサッカー教室も開催し、80 名余りが参加している。一方、冬のイベントとして、青森市は全国でも数少ないカーリング場を持つまちとして、小中学生によるカーリングチャレンジ大会を毎年開催している。28 年度は、小学校 20 校、中学校 11 校、合計百数十名の子どもたちが参加している。加えて、スケート場を会場とした氷上スケートレクリエーション祭りでは、氷の上で行うドッジボールや、綱引き大会、玉入れなどが行われ、百名弱の子どもたちが参加している。これに加え、テニス、卓球など皆さんが参加できるスポーツイベントはたくさんある。皆さんがこれからスポーツ活動に積極的に取り組むことで、市のスポーツがますます盛り上がりを見せていくものと考えているので、ぜひ各種スポーツ教室やイベントなどに積極的に参加し、スポーツ活動に取り組んでほしい。



続いて、市からのコメントに対し子ども会議委員の代表者から感想をもらいました。

(子ども会議委員)

私たちは今回実施したスポーツイベントの結果を踏まえ、場所や参加者の対象年齢、実施するスポーツを検討し、今後継続的にこのようなイベントを開催していこうと考えている。その結果、ニーズが高いことが分かれば最終的には市で施設や機会を継続的に確保してもらえたらいいなと考えている。スポーツのイベントがたくさんあることが知ることができた。

第一部の最後に、市長から発表を聞いた感想をもらいました。

市長は、「今日の 3 つの提案、自ら皆さんが現地に足を運び実践し、提案していただいたということで、とても内容のあるものだと思います。皆さんがご提案いただいたことは、自ら挑戦してこそ価値があると思います。我々も一生懸命それに答えたいと思いますし、皆さんもぜひ挑戦してほしいです。そして挑戦したときに、一緒にやってみようよという仲間が増える子ども会

議であってほしいと思っています。本日は誠にありがとうございました。」と感想を述べていました。

続いて、場所を議場から委員会室へ移動し、「**第二部 子ども会議とーくいべんと～おはなししよう。みんなのこと 自分のこと。**」が行われました。

このとーくいべんとは、子ども会議委員と公募した子どもたちが、身近な問題を例に自分らしく生きることなどについて議論するものです。青森市子ども会議擁護委員の沼田徹先生、小林央美先生、関谷道夫先生をコーディネーターとし、子ども会議委員の他に2名の中学生が参加してくれました。

今回は「①個性を表現しちゃダメなの?」「②自由な時間がほしい!」という2つのテーマについて、2部屋に分かれて議論しました。

①では、子どもたちの関心事である髪型や制服などについて、規則を設けることについて「賛成」と「反対」のグループに分かれて議論を行いました。本来の自分の意見とは違っていても、それぞれの立場や考えを理解してもらうことを目的として行います。

②では、学校や塾、習い事、部活に宿題など、現代の子どもたちの忙しさについて話し合いました。子どもたちは、自分たちの日常生活を振り返りながら自分の意見を伝えるとともに、他の子どもたちの意見にも耳を傾けていました。



各テーマでの議論が終わった後、「③分科会報告会」として、子どもたちとコーディネーターの先生は1つの部屋に集合し、各テーマの代表の子ども会議委員から、それぞれのテーマで議論された内容や感想を報告しました。その後、コーディネーターを務めた先生方から今回のとーくいべんとの感想をいただきました。

以上で、「青森市子ども会議フォーラム 2017『FOR CHILDREN～参上！青森市の小さき救世主～』」は全て終了しました。